

【小学生の部：厚生労働大臣賞】

「かべのない社会へ」

北海道・旭川市立永山小学校

4年 小松 愛来 さん

私はこの作品展のタイトルを見るまで、福祉とか障害者とか深く考えた事はありませんでした。なぜなら私の家族は、私以外みんな体が不自由だからです。私が生まれた時からずっとこの家族と一緒に。私にとって、この生活この家族が普通であって特別ではないからです。

まず父です。私の父は耳が聞こえません。父に話す時は、手話や身ぶりで話しをするか口を大きくゆっくり動かせば私の口の動きを読みとってくれます。大切な用事の際は、紙に書きます。これが私の日常の生活です。こんな事もあります。父の友だちが来ると、みんな声を出さず手話で会話をしているので、何を話しているのか、さっぱりわかりません。私だけ外国人、別の国の人のように感じます。逆の立場で考えると父は、いつもこんな気持ちでいるんだなあと思います。

手話は耳の聞こえない人たちの言葉だけど、だれもがみんな手話を覚え使えたら、聞こえる聞こえないと言う「かべ」は、なくなるのではないかと思います。

次は、母と兄です。母と兄は同じ病気で体が少し不自由です。きん肉や骨の病気で走ったり、重い物を持ったりする事は出来ません。見た感じも少し普通と違います。出来ない事もありますが、出来る事は何でもやってくれるので、あまり体が不自由だからと感じた事はありません。でも時々、母や兄が病気でなかったら一緒に走ったり、なわとびをして遊べるのになあ～と思う時もありますが、それは言った事はありません。なぜなら母や兄の方がもっともっとそう思っていると思うからです。

このように周りとは少し違う家族なので、友だちから「大変だね」とか「かわいそうだね」と言われる事があります。こう言われると、ウチの家族は大変でかわいそうなのか？と思う時もあり、そして、父や母や兄、体の不自由な人は「かわいそう」と思っていた事もありました。私は思いきって母に聞いてみる事にしました。すると母は、「お母さんは幸せだよ。こんな体で辛い事もたくさんあるけれど自分かわいそうだと思った事ないよ。体がどうなのか？と言う事より、自分がどう生きるか？と言う事が大切なんだよ。元気で普通の家族じゃなくて愛来に辛い思いさせてごめんね。」と母はそう話してくれました。これ

を聞いて私は、今までむねにつかえていた物がスーッととれたように感じました。

最後に、障害があるとかないとかではなくどんな人にも必ず役わりがあり意味があると思います。お互いが支え合って、かべのない社会になってほしいと私は思います。